

児童相談所が健診の事後措置の流れの中で果している役割とその評価（第一報）

山崎 晃資，松田 文雄，林 雅次，猪股 丈二

渥美真理子，溝口 健介，篠原 一之，植月 マミ

江副 里美（東海大学医学部）

村田 恵子（東海大学医療技術短期大学）

大塚 乙子（元神奈川県立厚木児童相談所，東京健康科学
専門学校）

われわれは、神奈川県において児童相談所が、保健所の健康診査の事後指導の中で果している役割についてその評価および分析を行う予定であるが、本年度は、東海大学医学部児童精神科の関与している児童相談所3カ所（厚木児童相談所、中央児童相談所、小田原児童相談所）を中心に、その実態を把握し、検討を加えることとした。

方法としては、まず、児童相談所の業務内容と相談・通告から措置に至るまでの過程について把握し、また相談内容の種別に関しても整理した。次に、行政区分の異なる川崎、横浜を除く神奈川県下の5つの児童相談所（厚木児童相談所、中央児童相談所、小田原児童相談所、相模原児童相談所、横須賀児童相談所）の所管区域における0～17歳の年齢別児童人口、年度別相談受付状況の年度別（56年度～60年度）推移、相談内容とその年度別（58年度～60年度）推移、3つの児童相談所（厚木児童相談所、中央児童相談所、小田原児童相談所）における3歳児精密検査依頼数と依頼内容の年度別（56年度～60年度）推移などを調査した。一方、保健所で行われている健康診査の内容について整理し、横浜、川崎、横須賀を除く神奈川県下の保健所における健康診査（3カ月児健康診査、お誕生前健康診査、1歳6カ月児健康診査、3歳児健康診査）状況の年度別（58年度～60年度）推移とそれに伴う児童相談所への要精検紹介数の年度別推移について調査を行い、保健所から児童相談所（厚木、中央、小田原）に対し精密検査依頼のあったケースの事後指導状況、厚木児童相談所における精査依頼ケース（58年度）の具体的な内容（性別、地域別分類、精査後の状況、3年後の就学状況）について調査を行った。さらに、調査を行った児童相談所の所管区域内における地域訓練会の実施状況、施設の概要についても調査を行い、健康診査に伴う業務連絡会（保健所、市役所市民健康課、児童相談所）で聴取した意見や感想をまとめた。これらの資料をもとに、比較検討することで児童相談所が、保健所における健康診査の事後措置の流れの中で果している役割について考察を行った。

その結果、保健所で異常と判断されたケースの中のごく一部しか児童相談所に精査依頼が出されず、しかもその件数が年々減少傾向にあることが分かった。この背景について考察すると、

（1）市町村、保健所にも心理判定員、言語治療士などの専門職が採用されるようになり、保健婦

や医師とともに、検診後の経過観察や治療的アプローチを行っていること、

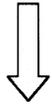
- (2) 障害を持つ子どもの療育が児童相談所のみならず、市役所の設置する親子教室、言葉の教室、保健所の主催する各種の教室、社会福祉法人の主催する地域訓練会などに広がりつつあることなどが考えられる。

また、児童相談所に依頼されるケースは、

- (1) 養護の問題が強いと思われるケース、
(2) 子どものみでなく、親に対する教育指導、経済的援助などが必要と思われるケース、
(3) 精神発達障害、肢体不自由など、措置を必要とする可能性のある子どもで、今後長時間にわたる経過観察が予測されるケースなどに限られているように思われる。

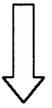
以上の結果および考察から、

- (I) 保健所、児童相談所ともに多くの業務をもっているが、それらは一見、体系化しているように見えても果して機能しうる人員配置システムになっているのかどうか、
(II) 保健所、児童相談所、精神衛生センター、病院、学校などがどのような連携を取り得るのかについて体系的な検討がなされていないが、それらは今後どのような連携を取り得るのかなどについてさらに調査を進めながら検討を行い、次年度以降に発展させて行く予定である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



われわれは、神奈川県において児童相談所が、保健所の健康診査の事後指導の中で果している役割についてその評価および分析を行う予定であるが、本年度は、東海大学医学部児童精神科の関与している児童相談所3カ所(厚木児童相談所、中央児童相談所、小田原児童相談所)を中心に、その実態を把握し、検討を加えることとした。